

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 豊橋市立野依小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
所在地 〒441-8124 愛知県豊橋市野依町字諏訪 125 番地  
E-mail noyori-e@toyohashi.ed.jp  
Website http://www.noyori-e.toyohashi.ed.jp  
幼児児童生徒数 男子 272 名 女子 243 名 合計 515 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「ぼくたち、わたしたちの町“野依”～地域を愛し、ともに生きる野依っ子の育成～」をテーマに、校区の特性を生かし、商店での学習や水耕栽培、高齢者との交流など、体験的な学習を進めている。

このことを「持続可能な開発のための教育」(ESD) の推進に結びつけていくために、これまでの教育課程を見直し、生活科・総合的な学習の時間を中心に児童会活動や各教科も関連づけた ESD アクティビティプログラムを策定し、実践を行っていく。この ESD アクティビティプログラムをもとに継続実践していくことで、将来にわたって自分の地域のよさに気付き、地域のほこりと愛着を育てていくことができると考えている。

本校では、ESD を「いのち」の観点から、自分たちが住む町や人のつながりについて学習し、そこを出発点として、野依の「ヒト・モノ・コト」についての学習を深め、持続可能な社会作りの担い手を育てる教育としてすすめていきたい。本校においては、その資質・能力の基礎的な部分を育てることを目的と考えている。具体的には、次の 4 つの活動を行った。

① 地域を知る活動

- ・ 校区探検（2年生、3年生）
- ・ 防災学習（6年生）

自分たちの住む街を探検し、地域の特徴を知ることによって、誇りと愛着を育んだ。第6学年では、大地震を想定した起震車による地震体験を通して、いざという時に自分たちができることを考えた。地域の一員としての自覚を高め、活動のふりかえりを地域に発信した。

② 地域の施設に関わる人々にふれる活動

- ・ 校区内のくすのき特別支援学校との交流活動（全学年）
- ・ 地域にある福祉施設との交流活動（4年生）

くすのき特別支援学校との交流活動は3年目を迎えた。お互いを知り、共に楽しく遊べる活動を子どもたちが企画し、運営した。各学年年間3回実施した。交流の様子を「わくわく通信」（年間2回）に掲載して、地域に発信した。

③ 地域の人と関わる活動

- ・ 水稲栽培（5年生）や昔の遊び体験（1年生）

地域の老人会（稲作クラブ）との連携を図り、水耕栽培や昔の遊び体験をすることで、お年寄りの知恵を知り、人間関係を深めることができた。

④ 行事等を関連づけた活動

- ・ 運動会、夏休み作品展、学習発表会、学校開放日

児童、保護者、教職員、地域住民が一体となって成果を発表する機会を持つことで、地域の誇りや地域への愛着心を育み、人との関わり、つながりを重視していく姿勢を養った。



③の写真「昔の遊びを体験しよう」



①の写真「起震車による大地震体験」



③の写真「田植え体験活動」



②の写真「わくわく交流活動」

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

「かがやくとよはし」 平成 23 年 4 月 1 日発行 編集：豊橋市立小学校社会科副読本研修委員会発行：豊橋市教育委員会 印刷：株式会社アプライズ
「小学校キャリア教育の手引き」 文部科学省 平成 23 年 5 月
「キャリア教育ノート」夢を見つけ夢をかなえる航海ノート 平成 24 年 2 月 29 日発行
発行：愛知県教育委員会 制作：NPO 法人相互教育ネットワーク 誰でもヒーロー
印刷：凸版印刷株式会社

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年の教育課程を作成する中で、総合的な学習が教科・領域や行事と関連づけて学習できるようにしている。また、総合的な学習のカリキュラムを作成するにあたっては、発達段階を考慮した内容としている。また、地域と連携した活動をどう組み込むか、子どもたちが自ら考え働きかけることができる計画になっているかなどの点について検討・改善している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域の福祉施設や敬老会をはじめとした諸団体と連携を図り、それらがどの学年の活動内容と関連できるか考えている。また、各学年の活動内容を系統立ててとらえ、カリキュラムの見直しを行っている。地域の方々には、学校の教育内容について自治会や敬老会などを通じてお知らせし、協力を仰いでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童のさまざまな活動の成果を、事後のまとめやふりかえりなどから把握している。学習や活動のまとめとしての授業公開や、学習発表会等での成果の発表や地域への発信を通して、関心・意欲・態度等を観察し、評価している。あわせて、学校評議員を通じた地域からの評価や、学校教育アンケート調査などから、ESD アクティビティプログラムを見直し、いのちの学習に関する具体的な活動内容の改善を図っている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

各学年で活動した内容やそこから得られた知識や考えを、新聞にまとめ、えた。保護者や地域の方が訪れる参観日等で廊下やオープンスペースに掲示したことで、保護者や地域の方にとっては子どもたちの考えを知り、成長を感じる機会となっている。他学年の児童も読むことができ、豊饒発信の場となっている。また、学校新聞やPTA新聞、学年通信などに掲載することで、児童の学習の様子を発信した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

多くの学習活動について、地域の方との係わりは不可欠である。老人会をはじめとした諸団体から得られる内容はたいへん貴重であり、体験的な活動は児童のふりかえりからも十分に満足できるものであった。11月には地域の小中学校が集まり、ESD活動の内容や成果について発表し合う活動を行ったことで、よい刺激を得ることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

今年度は行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

5年生の稲作体験から、普段口にしていない食材に対して意識が変わってきたことを感じた。田植えや稲刈りの方法だけにとどまらず、地域の土地柄に関心を持ち、お年寄りの方の知恵を知ることがきっかけに、収穫できた喜びと支援していただいた方たちへ感謝の気持ちを伝えようと、30名余りの稲作クラブの方を紹介し、感謝の会を企画した。家庭科で五大栄養素を学習し、おにぎりにあわせる味噌汁の実を工夫する姿が多く見られた。疲労回復や健康増進など、稲作クラブの方をイメージして食材の持つ効果・効能をあれこれ話し合い、決定していく姿が見られた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

子どもたちは、何年生になるとどんな体験活動をするのかを、少なからず理解している。しかしながら、その活動に対する興味・関心は高く、「やってみたい」「行ってみたい」という声をよく耳にする。そこで、教師の働きかけをひと工夫し、また、児童から出た課題を話し合い、練り合うことで、より継続した追求学習が可能になると考える。

そこで、来年度は子どもたち自ら課題を発見し、活動に結びつくことができるような学習過程を工夫する。また、教科や領域、行事と関連づけることで、子どもたちの学びが広がり、深まるよう総合的な学習を構想する。

子どもたちが得た思いや学びをまとめ、地域に発信していくことで、地域を愛し、郷土のよさを大切にしていきたいという気持ちを育てたい。それによって学校と地域とのかかわりが増やし、双方向で新たな学びにつながるよう計画する。